

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

都市基盤情報整備及び GIS 活用による業務の高度化・効率化と行財政改革

2 取組期間

平成 22 年度～（継続中）

3 取組概要

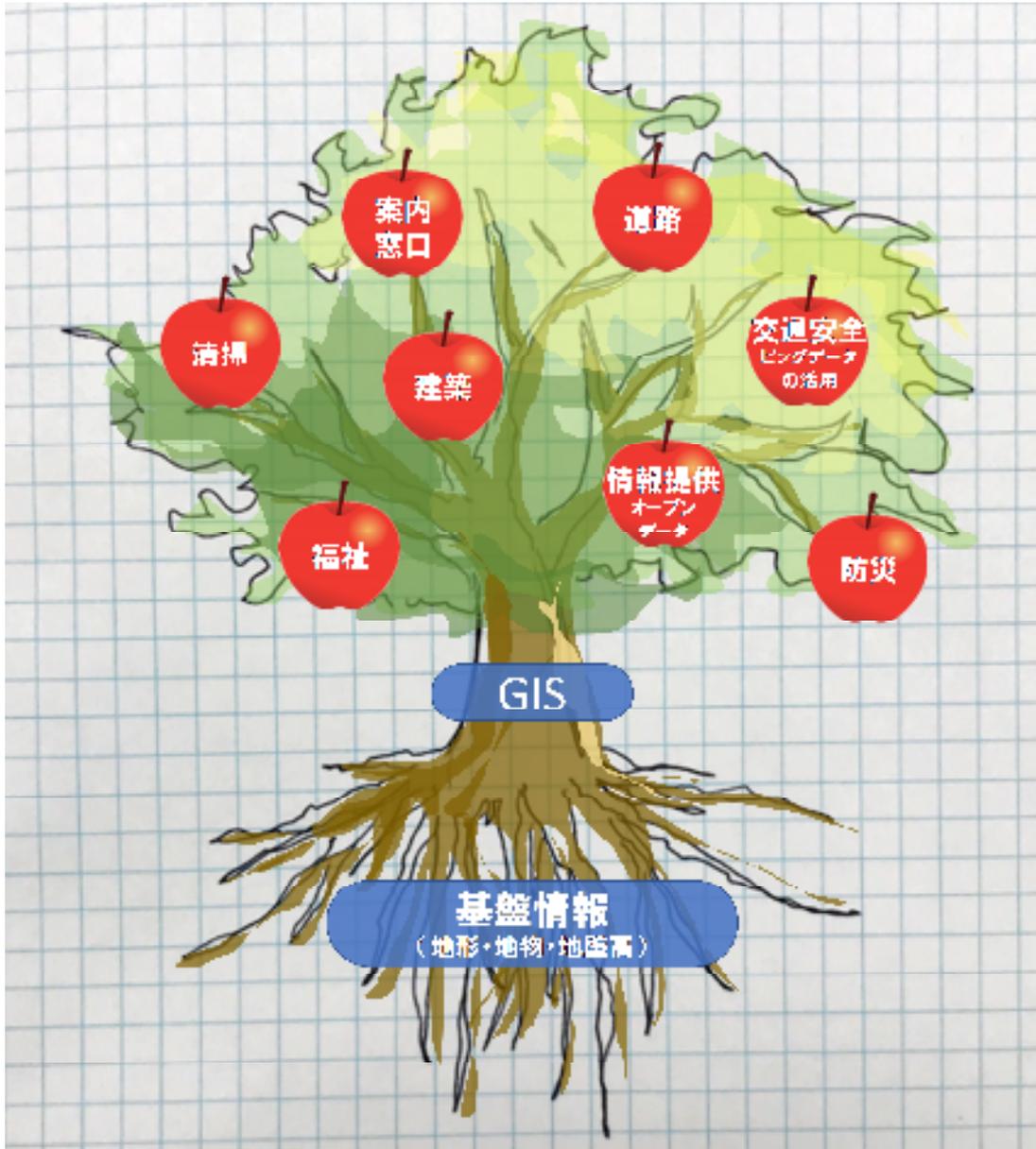
杉並区では高精度 3 次元データによる都市基盤情報の整備と、それらを扱うためのツールとして GIS（地理情報システム）を構築、運用することで、従前主流だった紙による仕事の進め方を変え、ICT を活用による業務の高度化・効率化を実現しました。専門部署から始めたこの取組みを全庁展開させ、庁内ネットワーク等既存の仕組みを活用し、他部署との垣根を超えた情報の共有化、オープンデータを初めとする区民への提供情報量を大幅に増加させました。

現在、都市基盤情報を一か所で案内（閲覧・資料収集）できるカウンターの設置を検討し、さらなる行革を進めています。

4 背景・目的

平成 22 年度、道路管理部署を中心としたプロジェクトチームを編成し、大縮尺地図の作成とそれをベースマップとした全庁 GIS の構築検討を始め、平成 26 年度に全庁 GIS の運用を開始しました。GIS は従前の仕事の進め方を見直すきっかけとなり、現在も効率化による行財政改革を進めています。

5 取組の具体的内容



高精度3次元データによる基盤情報の整備とGIS利用により、多方面へ活用を展開

全ての基礎となる基盤情報は都市インフラを扱う部署が確実に整備・更新を実施。多くの職員が日常業務でストレス無くGISを使える仕組みを施したことで全庁的に情報量が自然に増え、垣根を超えた情報の共有化が進み、様々なシステム連携を可能としている。



土木・建築・都市計画
窓口の一元化（予定）



災害情報を自動で
オープンデータ化



基盤情報を
自動運転に活用



ビッグデータを活用した
安全対策

業務の高度化の一例

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・MMS（モービルマッピングシステム）及び航空レーザ計測により取得した高精度3次元データから、区内全域（34.06k m²）の基盤情報（地図情報レベル500の地形図、DSM、DEM等）を整備。地形図作成については国の直轄事業を活用したため区の費用負担はゼロ。
- ・都市インフラを扱う部署が確実に基盤情報を整備・更新していく。多くの職員が日常業務でストレス無くGISを使うことで全庁的に情報量が自然に増え、垣根を超えた情報の共有化が進み、区民への情報提供（オープンデータ）へと広がりました。

7 取組の効果・費用

杉並区基図（地図情報レベル500地形図）作成・・・区費0円（国費利用）
全庁GISイニシャルコスト・・・区費約900万円（補助金利用）

【主な効果】

- ・専門部署から全庁へ、さらに区民へとGISの利用が拡大
- ・外部への提供情報量の増大（オープンデータ、ビッグデータ）
- ・様々な部署と連携することで新たな事業が創出

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

どうすればより多くの職員にGISを使ってもらえるか？
多くの職員が日常業務でストレス無くGISを使うことで全庁的に電子情報量が自然に増え、情報の共有化が進み、区民への情報提供（オープンデータ）へと広がりました。

9 今後の予定・構想

道路・建築・都市計画・まちづくり等の情報を一カ所で提供できる庁内GISを活用した「(仮称)都市情報案内カウンター」を設置し、来庁者へのサービス向上を図るとともに窓口案内業務に要する経費削減を目指す。

10 他団体へのアドバイス

GISを使える職員を増やすためのいくつかの仕掛けが必要です。
今までの仕事の進め方を見直してもらい、GISを使うことで今までの仕事が効率化し、それによって得られた時間を別のことに有効利用できることを知ってもらうための取組みは現在も続いています。

11 取組について記載したホームページ

GISの取組みの一つ、杉並区の公式電子地図サービス（公開型GIS）「すぎナビ」
<http://www2.wagmap.jp/suginami/top/>